

肱川流域における防災教育の取組み

事業の概要

計画規模を上回る洪水の発生など想定を超える災害が発生した際に地域住民の安全を確保するためには、河川管理者及び関係機関の防災体制の整備による被害の防止、軽減を図るとともに、関係機関の協力や地域住民の防災意識の向上が不可欠です。このため、防災訓練や防災ステーションの見学会等を実施するとともに、小中学校及び自治会等において洪水被害の歴史等を踏まえた防災教育を実施しています。

また、自治体の避難情報や、河川やダム等の防災情報等を活用した住民参加型の避難訓練等を関係機関と連携して推進します。

【防災意識の向上を図る取組み】



【防災ステーション見学会】



実施と達成

大洲市教育委員会を通じ、大洲市と合同で市内の小学校に出向き、防災教育を継続的に実施しています。令和7年度には小学校4年生を対象に、肱川の「洪水」をテーマとした防災教育教材を提供し、若手職員が講師となり、単元「自然災害からくらしを守る」（10時間）についての学習を行っています。

また、大洲市危機管理課や大洲市消防団も講師となり、座学・活動体験を実施しています。

令和7年度実績: 3校8回

【国土交通省】

肱川の特長や災害時では誰がどのような活動を行っているかについて学習を行った。



【大洲市危機管理課】

自分の命を守るために何ができるのか、防災活動ではどのような人が活躍しているか学習を行った。



【大洲市消防団】

洪水時の消防団の方は、どのような活動をしているか（水防活動・避難誘導等）学習を行った。



今後の予定

出前講座、防災教育教材の素材提供を継続する等、地域住民の防災意識の向上に努めます。

肱川における水害リスクを踏まえた防災まちづくり

- 肱川流域では平成30年7月豪雨による甚大な被害を受け、国・県・市が一体となり治水対策を進めているところ。激特事業等による堤防整備などにより治水安全度は上がっているが、今後も気候変動の影響等により、水害リスクは存在。
- そこで、大洲河川国道事務所、大洲市、愛媛県、東京大学※で連携し、『地域の防災意識の向上と水災害リスクを踏まえた防災まちづくり』に関する取組を令和5年度より開始。

<取組のポイント>

- 地域住民、特に若い世代の参画、地元の高校生を対象にした**伝承を通したワークショップ・スタディツアー**を実施
- **災害を経験した地域住民が語り部**として被災経験、また備えていて良かったこと、準備しておくことなどを**伝承**
- 災害時だけでなく、普段の住まい方を踏まえた両面から**今後のまちづくり**をどうしていくか議論



※東京大学工学部社会基盤学科 羽藤 英二 教授

【令和6年度活動概要】

高校生による出前授業の実施

- 防災まちづくりの活動を通して学んだことを、**次世代へ伝えたいという高校生たちの思いが広がり、大洲高校・大洲農業高校の生徒による防災・減災の出前授業が実現しました。**
- 過去の災害から得た教訓を伝承し、自分たちも地域とのつながりを深めたいという願いのもと、今年度から取り組みを開始しています。

<大洲南中学校へ出前授業>

- 日時: 令和7年7月2日
- 対象: 大洲南中学校 3年生を対象
- 大洲高校経済調査部防災地理班による防災・減災出前授業を実施。

【内容】

東北視察の報告や肱川の防災に関する取り組みについて、クイズ形式で進めながらわかりやすく活動内容を紹介し、中学生を飽きさせない工夫で防災について楽しく学ぶ授業を行った。



<三善小学校へ出前授業>

- 日時: 令和7年10月14日
- 対象: 三善小学校 全校生徒を対象
- 大洲農業高校生徒による講話

【内容】

平成30年7月豪雨の被災体験について、当時の思いや状況を写真で示しながら小学生に講話。辛い経験を前向きに捉える大切さや、少しずつ防災への関心を持ってもらいたいと呼びかけ、小学生の心に響く授業を行った。

